

●下水道特別会計

Q：デイスポーターの導入か、バイオマスタウン構想か、どちらを優先するのか。

A：ゴミの減量化と資源の有効活用を如何に図るか、行政としてどうあるべきか経済効果などこの構想を更に精査する必要がある。

●水道事業会計

Q：平成12年度の中期見直し時に3年後には見直しをしなければならないと明記し、今日に至っていない。使用量が下げ止まらない中で料金の見直し時期が来ているのではないか。

A：有収水量が減ってきているが、人件費の削減から赤字になっている。今後下水道の料金改定を考えている。

Q：下水道料金の見直し理由は、処理場の機械の取替か、それとも現実の収支のバランスからなのか。

A：下水道料金は平成元年

の供用開始以来行っていないし、全国的にみても安い。一般会計から7億円の繰り入れが行われている中で、利用者から自分の負担はやむを得ないと考えている。

健康福祉課

Q：高齢化率が27・97%になっっているが、これからピークを迎える。今後の高齢化率の推計は。

A：介護保険事業計画の中で平成27年度まで人口推計をしている。

Q：社協の運営費の補助金2千700万円、職員4名分と説明しているが誰の分なのか。

A：職員4名分の給料の一部と、身体障がい者の助成、高齢者支援事業、委託事業を含めている。昨年度は3千万円。年々減らしている。

●国民健康保険特別会計

Q：年2回開かれる国保運営協議会のメンバー構成は、執行部案を単にお墨

付きを頂くだけの会議ではないか。会議の内容を訊かせてほしい。

A：メンバーは被保険者代表3名、広域的な方3名、医療関係者3名の計9名で構成、6月の税率決定、2月の次年度予算内容と当年度決算を審議、繰入金、基金の運用、繰入金を基に税率決定をしている。委員には2期4年の方が多く、内容も熟知していて適切な意見が多いと感じている。

●介護保険特別会計

Q：18年度から新予防給付という新しい制度ができ介護サービスのやり方が変わった。19年度から運用されて何が変わったか、どのように予防効果が見れたか。

A：予防給付と介護給付は同じサービスで提供されていたが18年度の見直しから要介護から要支援1・2に分けられ、サービスが月単位の方法に変わった。要介護と変わら

ないサービスを受けていた方が見直しによって、必要のないベットと車椅子のサービスがなくなつた。予防効果については追跡調査をしていないのでわからない。

●病院事業会計

Q：整形外科医の確保はどう進んでいるか。

A：整形外科医の常勤化を開設以来要望しているが依然と困難な状況である。

町民課

Q：電気式生ゴミ処理機の普及はゴミの減量化と堆肥化に有効である。普及の方法と現状はどうなっているのか。

A：組合に補助して普及に努めているが、さらに広報などを通じて普及に努めたい。

Q：学童保育の利用状況は。

A：児童クラブの通園状況は今年度で土樽小学校1名、三俣小学校1名、神

立小学校9名、湯沢小学校12名の計23名、そのうち送迎は土樽、三俣各1名となっています。

産業観光課

Q：観光周遊バス運行費124万円のうち、99万3千円の負担となっているが、2、3年前からみると減っている。どう按分して算出しているのか。

A：湯沢温泉旅館組合が15万円12・1%、フィッシングパークが10万円8・06%、都市施設公社が1万5千円1・21%、スノーリゾートが3万円2・42%となっている。乗車割合から各施設と協議して決めている。

Q：新潟スノーファンクラブの負担金と運営は。

A：14市町村が加盟、湯沢町300万円、南魚沼市120万円、妙高市109万円、他計635万4千円、県が650万円を負担して運営している。